

学校法人永原学園
さんこう
児童クラブ通信
令和5年12月発行
— 第9号 —

【三光幼稚園】
TEL：0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL：090-7430-1312

『冬季のブーム』

今、児童クラブでは指編みでマフラーをつくる活動がブームになっています。その様子は右側に支援員の先生のコメントとして掲載していますが、先生達が驚くのは、まず、おうちの方に自分が編んで贈り喜んでもらいたい気持ち、そして根気よくできるまでやり遂げる力、仲間に優しく教える思いやりの心をいっぱい発揮している子ども達の姿です。

今年は3学年が揃い、少し難しいことは習える環境ができたことも関係がありそうですね。

幼稚園、保育園時代の子ども達も、冬季になると室内の活動時間が長くなるのでじっくり時間をかけて取り組む遊びが流行ります。マフラー編みやピタゴラス遊び等、互いに協力して、「あーでもない、こーでもない」と、意見を出し合って知恵を絞って作品を作り上げていきます。この冬、次は何が流行るかとても楽しみです。

もうすぐ、師走ですね。事故や事件に巻き込まれない様、安全面での指導もしていきたいと思えます。

◆ 12月のおたのしみ ◆

- 戸外活動
- 12月の壁面製作
- 学生さんの活動
- クリスマス製作

12月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	新規入所者数	11月末退所者数
1年生	11	0	11	1	0
2年生	11	0	11	0	1
3年生	1	0	1	0	0
計	23	0	23	1	1

児童の様子

あっという間に1年最後の月になりました。保護者の皆様のご協力のおかげでさんこう児童クラブは今年も無事に1年を終えることができそうです。本当にありがとうございました。

最近子どもたちは指編みでマフラー作りをするのがブームです♪自分で持ってきた毛糸を指で編んでいき、楽しんで作っていました(*^-^*)自分用に作っているのかと思いきや、「お母さんに作ってあげる!」「弟が誕生日だからプレゼントする!」と自分よりも先に家族の為に作っている子が多く、子どもたちの優しさにとっても感動しました(*^^*)出来上がった作品はすでにお家に持って帰っています♪子どもたちが作ったマフラーをつけてお出かけされてみてはいかがでしょうか?☆彡



ここに指通して...
そうそう!

みんなで輪になって教え合い、楽しそうに取り組んでいます(^▽^)/

おうちの人喜んでくれるかな?



お母さんと妹に作ってあげたい!



2年生、3年生は去年も行ったことがあるため、1年生に優しく教えてくれていました◆

次はここに糸を通してね!

◇ 12月の目標 ◇

「お迎えがきたら帰りましょう!」

毎日子どもたちは児童クラブで色々な活動をしたり宿題をしたりして楽しく過ごしています。しかし、遊びや宿題に熱中しすぎてお家の人に来た時に「まだ遊びたい!」「このパズルが終わってから!」と、待たせてしまう子もいます。児童クラブでの活動を楽しんでくれているのはとても嬉しいのですが、次の日に続きができるので、お家の人がお迎えに来られたら片付けをして帰りましょうね、と声を掛けています(*^^*)

支援員も子どもたちが自分から帰ることができるように関わっていきたく思います♪

「子育てで心がけたいこと」

西九州大学短期大学部 幼児保育学科 講師 大村綾

私は短期大学部で保育者養成に携わっています。先日、「子育て支援」という授業の中で、子育て支援のニーズについて話す機会がありました。その際、乳幼児を育てるお母さんが望む一人の時間について、どのようなものをイメージするかを学生に聞いてみたところ、「テレビ（動画）を観たい」、「友達と出かけたい」、「寝たい」などの意見が出てきました。もちろんこのような要望もあるかと思いますが、ある調査結果から見えてきたのは、「トイレに一人で入りたい」、「たまには手足を伸ばしてゆっくり湯船につかりたい」というものでした。この結果を聞いた時の学生の反応は、「自分たちが今当たり前にやっていることが、子育て中のお母さんにとっては、もしかしたら特別なことなのかもしれない」というものでした。

この話を学生にする時、自分の子どもが小さかった頃の子育てを思い出します。我が子が1歳になる前の後追いが激しかった時期、私の姿が見えなくなるとすぐに大泣きする娘の対応にクタクタになっていました。トイレに行く時はもちろんのこと、洗濯や掃除、料理をする時など、少しでも傍らから離れると泣いていたので、思うように家事が進まずイライラしてしまうこともしばしばでした。ちょうどその時期は育児休暇中で、子どもと終日一緒に過ごす日々でした。一日の終わりには、「今日一日、私はいったい何をしていたんだろう…」と思うこともありました。

そんな時、知人から紹介されたある1冊の本に出会いました。『今日』（福音館書店(2013)、訳：伊藤比呂美）という、子育て中のお母さんに向けた絵本です。子どもの育児に大わらわで自分のことは後回し、家事や掃除もままならず、自分の不甲斐なさに落ち込む母親が主人公です。しかし、この母親は子どもが眠るまでおっぱいをやっていた。子どもが泣きやむまで、ずっと抱っこをしていました。子どもとかくれんぼをしたり、歌ったり、して良いことと悪いことを教えたりと、かけがえのない我が子に愛情をもって関わっていました。そんなお母さんに「今、我が子をいつくしんでやっているのなら、それで大丈夫だよ」とエールを送ってくれる絵本です。そして「やらなかったこと」、「できなかったこと」に自信をなくしていた私に、元気を与えてくれた絵本でもありました。

子育てをしていると、子ども中心の生活でいつも時間に追われ、あっという間に一日が過ぎてしまった、ということがあるかもしれません。そんな時、母親として過ごした「今日」が肯定できれば、お子様との時間がますますかけがえのないものになるのではないのでしょうか。

